

論文審査の結果の要旨及び担当者

報告番号	博（医）乙第1757号	氏名	境 徹也
論文審査担当者		主査教授	篠原一之
		副査教授	丹羽正美
		副査教授	佐藤伸一
論文審査の結果の要旨			
<p>1 研究目的の評価</p> <p>従来、脊椎麻酔や硬膜外麻酔の経験から、細い神経ほど局所麻酔薬に対する感受性が高いとされてきたが、最近の基礎医学的研究から、細い神経ほど局所麻酔薬に対する感受性が低いという結果が報告された。そこで、本研究は、局所麻酔薬の投与方法を経皮的投与に変えることで、従来とは異なる分離感覚神経遮断を引き起こそうとしたもので、目的は十分に妥当である。</p>			
<p>2 研究手法に関する評価</p> <p>局所麻酔薬としてのリドカインの選択、濃度、ゲルの調整法はいずれも研究手法として独創的で的確である。また、局所麻酔薬の効果も神経線維レベルと受容体レベルの両面から検討しており、評価できる。</p>			
<p>3 解析・考察の評価</p> <p>上記手法で解析した結果、局所麻酔薬を経皮的に投与すると、神経線維レベルでは細い神経よりも太い神経に強く作用を及ぼし、受容体レベルでは触覚と温覚に比べ冷覚、痛覚に強く作用を及ぼすことが明らかにされ、今後の臨床応用が大いに期待される。</p>			
<p>以上のように本論文は局所麻酔の新たな投与方法の開発に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士（医学）の学位に値するものと判断した。</p>			